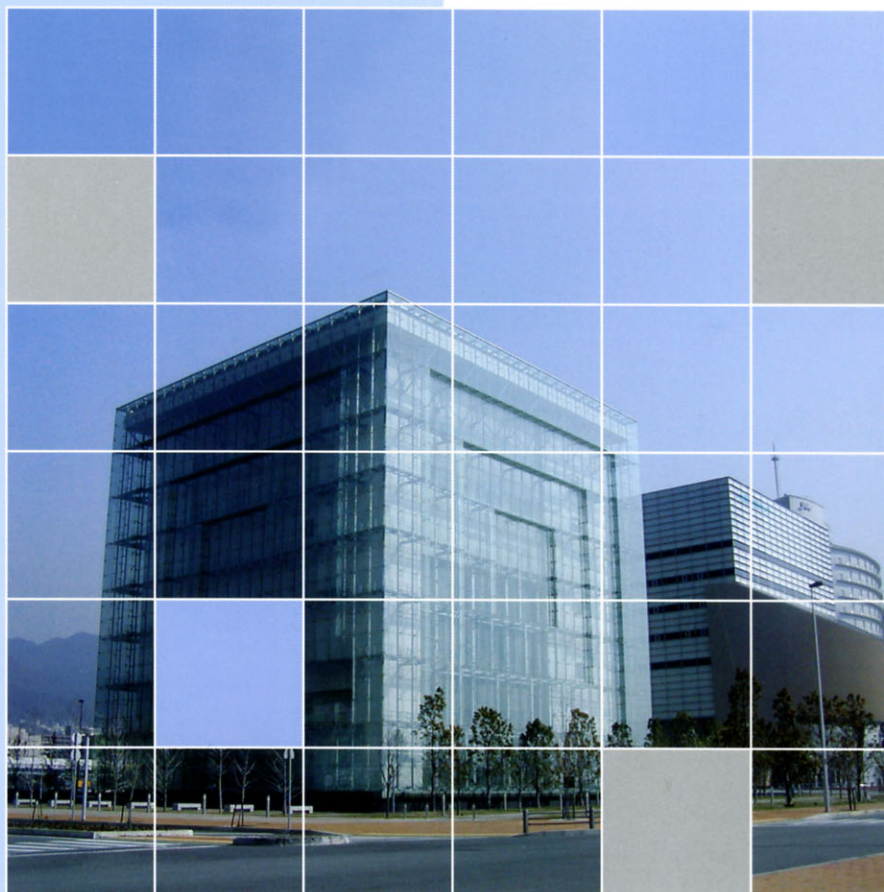


阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター

災害対策 専門研修

来るべき超広域巨大災害に備えて



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5067 FAX.078-262-5082

E-mail : pro@dri.ne.jp URL : <http://www.dri.ne.jp>



The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial Disaster Reduction and Human Renovation Institution



人と防災未来センター長
河田 恵昭
京都大学防災研究所長・教授
兵庫県参与

当センターは、人材育成、調査研究、災害対策専門家派遣、交流・ネットワーク、展示、資料収集・保存の機能を備えています。なかでも災害に関する実践的な人材の育成の一環として、「災害対策専門研修」を重点課題として推進しています。

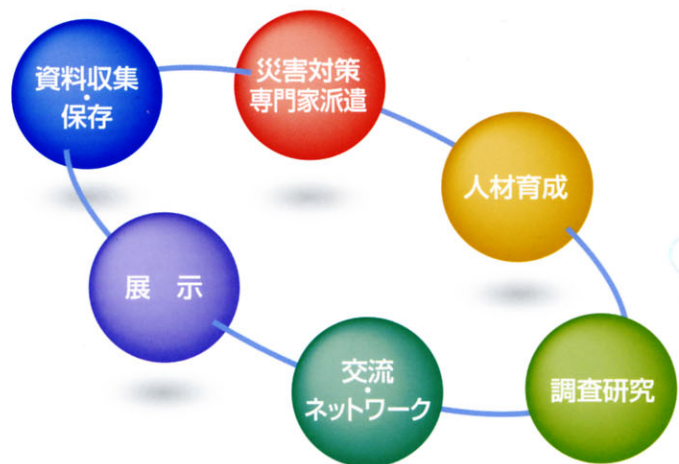
この研修は、センターがオープンした平成14年度から実施しており、カリキュラムや講義内容等については受講者から高い評価をいただいています。また、国の中央防災会議においても、我が国の防災担当職員の資質の向上を図る研修としての位置付けをいただいております。

今後予想される超広域巨大災害等に備えて、防災関係職員に必要な知識・技術を習得しておくことは極めて重要であると考えております。この研修は、センターの専門家が実践的・総合的な研修として企画・運営し、講師も第一線の方々をお願いしており、必ずや、関係者のご期待にそえるものと自負しておりますので、ぜひとも受講されますようご案内いたします。

災害対策専門研修の概要

当センターでは、人材育成事業の一環として、自治体職員等を対象とした「災害対策専門研修」を実施しています。この研修は、阪神・淡路大震災で得られた貴重な経験と教訓をベースに、組織トップの危機管理能力の向上や災害対策の専門職員養成のため、国内外の大規模災害のケーススタディなどを取り入れたより実践的・効果的な研修として実施することを目指しています。

この研修は、中央防災会議「防災に関する人材の育成・活用専門調査会」報告や「防災・危機管理教育のあり方に関する調査懇談会」報告書（総務省消防庁）において、防災担当職員の資質の向上を図る研修として取り上げられています。



「防災に関する人材の育成・活用について」報告（平成15年5月）

<関係部分抜粋>

- ・・・ 別添の標準的な研修プログラムに準拠した以下の研修を、国、地方公共団体等において実施・推進することにより、防災担当職員の資質の向上を図る。
- ・内閣府（防災担当）における国の防災担当職員を対象とする防災担当職員合同研修の実施
- ・人と防災未来センターにおける地方公共団体等の防災担当職員を対象とする災害対策専門研修の充実
- ・消防大学校や消防学校、都道府県等における地方公共団体の防災担当職員を対象とする研修の充実（eラーニングの活用を含む）・・・

「防災・危機管理教育のあり方に関する調査懇談会」報告書（平成15年3月）

<関係部分抜粋>

- ・・・ 自治大学校、市町村アカデミー、国際文化アカデミー、人と防災未来センター等において、消防大学校と連携し、全国レベルの防災・危機管理教育を地方公共団体の首長等幹部職員及び防災担当職員等を対象者として実施することが期待される。
- 消防大学校も含め、そうした全国的機関が実施する防災・危機管理教育が全国の地方公共団体の参考・モデル的なものとなることが期待される。・・・



内閣府政策統括官(防災担当)
柴田 高博

戦後、我が国を襲った地震災害のなかで最大の被害をもたらした阪神・淡路大震災。当時、私は兵庫県の都市住宅部長として被災地のまっただ中で奮闘したことをあらためて思い出します。全くのマイナスからの復旧、復興を成し遂げた成果は、後世に伝え残し教訓とすべきであります。特に、我が国は自然災害の起こりやすい地理的条件にあるだけでなく、東海地震、東南海・南海地震等の発生が切迫しております。政府としても、阪神・淡路大震災の教訓も踏まえ、各般にわたる防災体制の充実を図りこれらの災害対策に取り組んでおりますが、社会全体として災害等の危機を予防し被害を軽減するには、災害対応能力の向上をめざした人材育成が急務と考えております。

こうした中、人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を具体的に伝えるとともに、最新の防災研究成果を踏まえた体系的かつ実践的な「災害対策専門研修」が行われており、これまでに地方自治体の防災担当者をはじめ数多くの方が受講されております。とりわけ防災業務に携わるの方々には、災害を未然に防ぎ被害を軽減させるための知識と技術の習得、それらを実践する能力の向上に努めることが期待されており、こうした人と防災未来センターの研修制度を活用することを推奨いたします。



総務省消防庁次長
東尾 正

東海・東南海地震等の大規模地震のおそれや米国同時多発テロの発生等を踏まえ、我が国の防災・危機管理体制を抜本的に改革していくことが急務とされており、地方公共団体の消防防災担当職員の実践的な対応力はもとより、首長のリスク・マネジメント力も問われています。

このため、総務省消防庁としても、地方公共団体の幹部職員や消防防災担当職員、さらには消防団や自主防災組織等を対象とした実践的な教育のあり方について検討し、様々な取り組みを行っているところです。特に、来年2月からはインターネットを活用した防災面のeラーニングを開始する予定もあり、これらを多面的に活用した幅広い防災教育の拡充を図りたいと考えております。

このような中、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターにおいて開講されている「災害対策専門研修」では、地方公共団体の職員等を対象とした高度で実践的な研修を目指されており、私どもとしても、この研修に多くの方が参加され相互に連携が図られることによって、わが国における防災・危機管理教育体制が充実されるよう期待しております。

各コースのご紹介

トップマネジメントコース



自治体首長を対象とし、自然災害を中心とした危機管理のあり方を学んでいただくコースです。今後発生する大災害時に各自治体のトップに求められる対応などについて、最新の研究成果や国の災害対策についての情報等を基にトップ自らが議論すること等を通じ、自治体の危機管理のあり方を考えるきっかけとすべく実施します。

(対象) 知事・副知事・市町村長・助役

マネジメントコースA

阪神・淡路大震災の経験と教訓をベースに、大規模災害発生時に各種の対応が同時進行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力を向上させるとともに、新たな危機を予防・軽減化するための視点や考え方、手法などについて学びます。

(対象) 地方公共団体における防災・危機管理担当責任者など



マネジメントコースB



災害発生のメカニズムや阪神・淡路大震災の経験を踏まえた各部門の災害対応ならびに災害対策のあり方など、Aコースの前提となる基礎的な知識について体系的に学びます。

(対象) Aコースの対象者を補佐する者及びAコースの対象者のうち経験年数が浅い者など

巨大災害対策に必要な事項を体系的に網羅

災害発生メカニズムはもとより、総合的・鳥瞰的な状況把握の視点など災害対応のトップとして必要な心得に至るまで、行政の各部門各層における災害対応に必要な事項を網羅しています。

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた実戦的な研修

研修のあらゆる側面において、阪神・淡路大震災の教訓を効果的に習得することに重点を置き、震災の経験に基づく演習を取り入れるなど実戦的な内容で構成しています。

専門家による企画・運営

次代の防災専門家として期待されているセンターの専任研究員が、各々の専門的知見を持ち寄りカリキュラムを編成するなど、研修の企画・運営に積極的に携わっています。

研修の特色 Distinction

防災に関する第一人者である河田恵昭センター長をはじめ、センターの上級研究員、客員研究員等の研究者のほか、阪神・淡路大震災時に災害対応の第一線で活躍された方々や防災関係機関職員、ボランティア関係者などの実務者を招いています。

充実した講師陣

講師との意見交換だけでなく、受講者間での意見交換の時間を用意し、受講者間の「顔の見える関係」の構築、継続的なネットワークづくりを推進しています。

人的ネットワークの構築

受講者の声 Voice

受講レポートから

全国各地から、また、府県・市町を中心として国・ライフライン関係機関など幅広い団体からご参加いただいております。これまで受講いただいた方からは高い評価をいただいております。

マネジメントコースA

非常に幅広いジャンルからの講師のお話が聞け、今後防災に関わる者として、多面的な判断ができるツールをいただいたような感じです。
(市町村職員)

机上ではなく、実経験による「語り部」としての叫びが各々のテーマで深く心に響いた。また、リーダーの行動論として参考にすべき点が多々あった。
(ライフライン職員)

研修の内容もさることながら、全国各地の防災担当者やセンター職員の方々と交流できたことが貴重であった。
(都道府県職員)

オリエンテーションでユニット全体の考え方の説明があったため、個別の講義の位置付け、意味合いがよく理解できて良かった。
(都道府県職員)

一般の講演会等では得ることのできない専門的な知識や災害現場の実態を知ることができ、防災担当としてすぐに役立つ内容であった。
(都道府県職員)

マネジメントコースB

初動期から復興期に至るまでの行政機関からボランティア等色々な立場の人の実例を聞くことができ、大変有意義な研修であった。
(市町村職員)

今まで受けた研修の中で最も有意義であった。時間が大変短く感じられた。
(都道府県職員)

貴センター所属の研究員の方々の熱意を感じました。気持ちの良い研修でした。
(市町村職員)

単なる講義形式の研修だけでなく、まちへ出て地域の話の聞いたり、演習を体験するなど、より実践的なカリキュラムで良かったと思います。
(市町村職員)

優れた講義が多く3週間全て受けられずに残念である。業務上可能であれば今年度の秋期コースにも参加したい。
(都道府県職員)

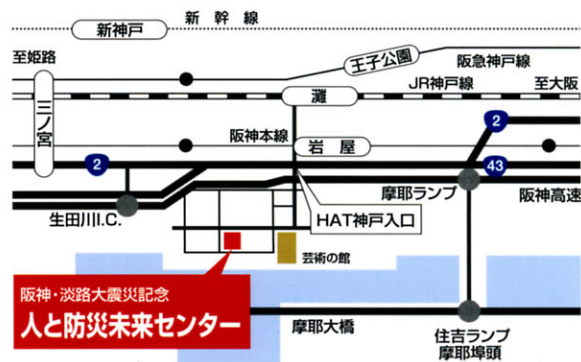
平成16年度受講者数

<トップマネジメントコース>

| | 市長 | 町長 | 市助役 | 町助役 | 県政策監 | 合計 |
|------|----|----|-----|-----|------|----|
| 兵庫県内 | 1 | 2 | 4 | 5 | 0 | 12 |
| 兵庫県外 | 0 | 3 | 3 | 0 | 1 | 7 |
| 計 | 1 | 5 | 7 | 5 | 1 | 19 |

<マネジメントコース>

| | 府県 | 市町 | 政府機関 | ライフライン | その他 | 総計 |
|-----------|----|----|------|--------|-----|-----|
| 兵庫県 | 2 | 25 | 10 | | | 37 |
| 近畿(兵庫県除く) | 15 | 25 | 1 | 2 | | 43 |
| 東北地方 | 1 | 6 | | | | 7 |
| 関東地方 | 6 | 5 | 9 | | 1 | 21 |
| 中部地方 | 38 | 18 | | | | 56 |
| 中国・四国地方 | 13 | 7 | 1 | | | 21 |
| 九州地方 | 5 | 6 | | | | 11 |
| 総計(のべ人数) | 80 | 92 | 21 | 2 | 1 | 196 |
| 団体数 | 21 | 40 | 4 | 1 | 1 | 67 |



※阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の貴重な経験や教訓を後世に継承し、国内外の災害による被害の軽減に貢献するため、国の支援を得て、兵庫県が整備し開設されました。